

●漁況情報

- 4月7日、長井町漁協の大型定置網でブリ 6.3 t が漁獲されました。新型コロナウイルスの影響で、浜値は安い状態が続いています。
- 4月7日、大磯町～湯河原町の沿岸に設置されている大型定置網でもブリ約 7,000 尾が漁獲され、小田原魚市場へ水揚げされました。漁獲されたのは7～9kgの太ったブリでしたが、やはり新型コロナウイルスの影響によりホテルや居酒屋の仕入れが少なくなったことから、魚価は例年の1 / 4程度と安めになっていました。



小田原魚市場に水揚げされたブリ

●浜の話題

- 3月下旬から4月上旬にかけて、三浦半島の各浜では養殖ワカメの種付け作業が行われました。海水を張った陸上水槽にワカメのメカブを入れて遊走子（孢子）を放出させ、種枠（塩ビパイプの枠に種糸を巻きつけたもの）を沈めて種糸に遊走子を定着させました。種付けが終わった種枠は育成小屋の水槽に移し、秋までの半年間、維持管理を行っていきます。



顕微鏡で遊走子を確認



種糸に遊走子を定着させている様子

- 4月15日、平塚市漁協と茅ヶ崎市漁協はアカモク増殖試験を実施しました。三浦市の漁業者が収穫した成熟したアカモクを、水深や底質が繁殖に適した場所に母藻として設置しました。母藻から放出された幼胚（種のようなもの）が設置海域で根付いて、来年にはアカモクが繁茂することが期待されます。



増殖試験に用いたアカモク

○ 当センターでは昨年秋より、磯焼け対策の一環としてフリー配偶体によるカジメ増殖試験を行っています。これは温度・照度を一定にした恒温器内でカジメの配偶体（カジメの芽のようなもの）を培養し、それを基質の上で成熟・生長させてカジメを人工的に増殖するものです。現在は予備試験の段階で、クレモナ系の上でカジメの幼葉が育つ様子が確認できました。今後は大量増殖の方法を確立し、磯焼けした漁場でカジメを復活させる手法を検討していきます。



カジメの配偶体（左側の糸状のもの）から伸びる幼葉



クレモナ系の上で生長するカジメ幼葉

●お知らせ

○ 4月27日、新型コロナウイルス感染拡大の影響対策として、経済産業省は「持続化給付金」の申請要領を公開しました。一方、厚生労働省は雇用者が多い事業者向けに「雇用調整助成金」をホームページで案内しています。詳細は下記 URL をご覧のうえ、活用をご検討ください。

・経済産業省 HP・持続化給付金パンフレット：<https://www.meti.go.jp/covid-19/pdf/kyufukin.pdf>

・経済産業省 HP・持続化給付金の申請について：

<https://www.meti.go.jp/press/2020/04/20200427003/20200427003.html>

・厚生労働省 HP・雇用調整助成金：

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/kyufukin/pageL07.html